



幼い頃から川は身近にあった。水面に映る青空、季節ごとに変わるせせらぎの音。その景色をずっと守りたいという思いが、治水の道へ導いた。今は河川砂防・港湾部で

尊敬と感謝の気持ちを忘れずに

オリエンタルコンサルタンツ 東北支社

ししど あや
宍戸 彩さん

技術主査を務め、河川や砂防に関する調査・設計に携わる。「社会の土台づくりに関われることが、仕事を続ける力」と穏やかに笑う。

大学で土木工学を学んでいた時、東日本大震災が起きた。未曾有の大災害が「地震や水害に備える仕事になりたい」と思うきっかけになった。

入社後、地元で砂防堰堤の設計を任せられた。図面と向き合う日々。つらさもあったが、それ以上に「ふるさとに形ある貢献ができた喜びで胸がいっぱいになった」と振り返る。

仕事は多くの人の支えと連携で成り立つ。だからこそ「尊敬と感謝の気だ。

持ちを忘れない」ことを何より大切にしている。壁にぶつかった時は、発注者からの「ありがとう」が心を前に押し出す。業務評定点で高い評価を受けると、自分の努力が形になったと実感できる。

入社して10年。経験は積んだが「まだまだ力不足」と謙虚な姿勢は変わらない。社内外で活躍する技術者たちに刺激を受けながら、専門の河川・砂防分野で腕を磨く日々だ。「環境や地質、道路など専門外の周辺分野の知識もある視野の広い技術者になりたい」。そのまなざしは、川面から青空を見上げた幼い日と同じように、今もまっすぐ